

平成 28 年度 第 1 回 アドバイザリーボード会議 議事要旨

1. 日 時：平成 28 年 10 月 18 日（火） 15:00～17:00
2. 場 所：国立研究開発法人日本医療研究開発機構 201 会議室
3. 出席者：
 - （委員）新井委員、荒木委員、小林委員、近藤議長、堺委員、田代委員、東嶋委員、山口委員、川原委員代理
 - （事務局）末松理事長、菱山執行役、樽林執行役、泉研究総括役、松尾経営企画部長、鈴木研究公正・法務部長、天野知的財産部長、森田産学連携部長、野田国際事業部長、加藤バイオバンク事業部長、吉田臨床研究・治験基盤事業部長、大場経営企画部次長、神谷戦略推進部次長、針田戦略推進部次長、
4. 議事
 1. 日本医療研究開発機構の取組と課題
 2. 法人評価の結果について
 3. 平成 29 年度概算要求について
 4. その他
5. 議事の概要

議長より開会する旨の発言があり、出席者の報告の後、議事に入った。

議事 1 について、事務局より、前回のアドバイザリーボード会議後の取組、今後の課題等について説明を行った。

委員からは、以下のようなコメントがあった。

- IRUD の取組には期待している。
- 生物統計家が日本で不足している問題がある中で、公募によって人材育成に取り組んで行くことには大変意義がある。
- 補正予算の出資金は新しい取組であり期待している。人材育成について、病院の実態も踏まえて、10 年かけて日本の医療のために必要な人材を育ててほしい。
- 中央倫理審査委員会は、効率化の意味で重要だが、あるところで問題があ

- るとされた計画が、別のところで簡単に通るようなことのないように、質の確保が大事。また、継続的な活動となるように支援いただきたい。
- 個人情報保護法は、医療のことからの工夫の検討がまだ必要ではないか。個人情報保護法の専門家と医療関係者がチームを作って、どういう制度が日本にあるべきかを海外の状況も含めて調べていくことが重要。そういう研究に資金提供するなどの役割を期待したい。
 - 補正予算の取組に期待するが、体力のある大学病院だけに予算が配分されるのではなく、体力のない大学病院もチームを組んで参画できるような仕組みも考えていただきたい。
 - 医療機器開発では現場からのニーズが重要であるが、少し小型の短期間で結果を出せるようなプロジェクトがいくつかあるとよいと思う。
 - NIH では、ルールの下で登録しておく、いろいろな疾患のゲノム情報にアクセスできて、基礎のアイデアを生かしてピックアップできる情報もあり、日本でもルールが上手く働けば、国内・国外のデータを用いた効果的な研究を実施できると思う。

議事2について、事務局より、平成28年9月に主務省庁から示された日本医療研究開発機構の法人評価について説明を行った。

委員からは、以下のようなコメントがあった。

- AMED は大変良い評価を受けていると感じる。
- 研究者と患者の関係が、以前より乖離していると感じる。以前は学会でブースを出してPR活動する場があったりしたが、最近はそういう機会が減っている。

議題3について、事務局より、医療分野の研究開発予算の平成29年度概算要求のポイントについて説明を行った。

委員からは、以下のようなコメントがあった。

- 補正予算の出資金による取組は、AMED の新たな発展であり素晴らしいと思う。その際、事業化できるかどうかの目利きが重要だと思う。
- 国民の税金を基に運用していることを鑑み、どういった機関に、どういった研究内容で支援して、どこまで進んでいるかや、研究全体の俯瞰情報について、情報公開をお願いしたい。
- 医療関係だけでなく、マスコミと定期的に交流の場を持つ等により、地域の中核病院や国民にAMED の取組や成果等の情報が伝わるようにしてほしい。

以上をもって議事は終了し、議長より閉会する旨の発言があった。